

## 「キリストの Passion」 ～あなたは情熱を持っていますか～

ヨハネ3：13-17

[3本の木]というお話があります。山の上に3本の小さな木が立っていました。それぞれの木は将来の姿を思い描いて言いました。1番目の木は「宝箱」、2番目の木は「世界一大きな船」、3番目の木は「世界一背高のつぼの木」になりたいと。しかし、現実とは違いました。1番目の木は「家畜のえさ箱」に、2番目の木は「小さな漁船」に、3番目の木は「材木として切られ、長い間置かれたまま」になったのです。3本の木たちはそれぞれ自分の思ったようにならず悲しみました・・・しかし、時が経ちイエス・キリストが人の子としてこの地へ生まれたとき知ったのです。1番目の木はイエス様という尊い宝物をお入れする飼料桶になったことを、2番目の木は荒れた湖をしっかりと受け止めるイエス様をお乗せる船となったことを、そして3番目の木は人々がそれを見上げるとき神様のことを思うようになるイエス様を磔にする十字架になったこと・・・3本の木はそれぞれ自分が願った形にはなりませんが、イエス様が生きていく道で大切な関わりを持ったのです。そしてそのことを通して神様の愛を知り、自分の役割を知り、強くなることができたというお話です。今日、4月24日はイースターです。イエス・キリストが十字架にかかれ、復活したことをお祝いする日です。復活までの1週間を受難週と呼びますが、あなたはこの時をどのような気持ちで過ごしましたか。いえ、この時だけでなくあなたはどのように日々を過ごしていますか。目標や目的を持って生きていますか。何のために生きているのか知っていますか。今日はそのことを「心」に焦点をあてて語ります。私達は信じられないことや想定できないことが起こると理解に苦しみます。そして、そのことは無意味ではないかと思ひ、捨て去ろうとします。しかし聖書に『家を建てる者たちの見捨てた石。それが礎の石になった。これは主のなさったことだ。私たちの目には、不思議なことである。(詩118：22-23)』とあるように、神様は人々が見捨てるようなものを大切とし基礎を置くのです。そしてそれが大きな基礎の上に立つあなたの土台となるのです。自分にとって信じられないこと、不思議に思うことが起こったとき、そのことを通して神様は意味のある土台をつくられようとしているのです。何かしようとしたとき、分かってはいるけれど実現できない、こうすればよかった、と後悔をすることはありませんか。人によってはできないことを責任転嫁する人もいます。また自己卑下する人もいます。そうすることで、できないことの説明づけをしようとするのです。でもそれは的外れしています。では、どうすればよいのでしょうか。それができたお方、イエス様はどのように生きられたのでしょうか。聖書にはこのように記されています。(ヨハネ3：13-17) イエス様は神様に示された役割を果たすためにどんなに嘲られても傷つけられても十字架の死にまでも従いました。なぜそうしたのでしょう。それはそのことを通して愛する人たちが生きることを知っていたからです。イエス様がそこまでできたのは、そこに「Passion」があったからです。(Passionとはキリストの十字架から来ており、情熱と受難を指します。)自分がなぜそれをするのか意味や目的が分かっているならば、そのことを受け入れられるのです。目的を果たすのは「情熱」なのです。あなたは何かを行うとき、なぜそれをするのか説明ができますか。逃げずに責任を持って向き合うことができているですか。自分の思いと違えば、がっかりしたり嫌だなと思ったりするかもしれません。しかし、自分の進む道を知り情熱を持って、また責任を持って向き合うならば、どんな困難を受けるときも神様は必ず助けてくださり、そのことを成してください。人は誰でも良いものを選びたいし、人が捨てるようなものは選びたくないと思います。それは人の目があるからであり、人より良くありたいと思うからです。しかし、もし、傷ついたものが自分の目の前にあると気づいたならば、それをあなたは目的と目標に向かって進むなかで、手に収めないといけないのかもしれません。そこで大切なのが情熱です。情熱は愛されたり、受け入れられたり、助けられたりしたときに、その人に対して感じるができるものです。だから逃げないで、向き合うことが必要です。すぐにはできないかもしれません。ですが情熱を持って仕事も、家庭も、そして関わる全ての人に接していきましょう。なぜキリストが十字架にかかったのか。それは、あなたがこれからも今までどおりの人生を歩むためではありません。あなたが赦され、愛されたことを知ることであなたの人生が変えられ、あなたの周りに多くの愛が示されるためなのです。あなたの行動を通してキリストの愛をあらわしていきましょう。あなたの関わっている人たちに対して熱い想いはありますか。想いはあるけれど私には関係ないという気持ちがどこかにありませんか。また、なにかのせいにしてあきらめていませんか。逃げていませんか。生涯で1人でもいいのです。誰かのためにいのちをかけて向き合うことを決心しましょう。そこに愛があり情熱があれば、必ず向き合い乗り越えることができるのですから。(要約者：金光 瞳)